



聖三木図書館ロゴ

イエズス会のイルマンとして両手を掲げ、人々に教えを説くパウロ三木。見せしめのため、他の殉教者とともに左耳をそがれた。



発行日：2012年7月31日／発行者：荒谷 幸二郎／編集者：竹内 光／デザイン：鈴木 博文／題字：山本 廣
イエズス会聖三木図書館

〒102-0083 東京都千代田区麹町6-5-1岐部ホール内 Tel. 03-3262-0364 http://www.jesuits.or.jp/~j_seimikibun/



多くの恵みと
出会いを頂いて

ヨゼフ・ピタウ 大司教

私は、イタリア本土の西約三〇〇キロの地中海にあるサルデーニャ島のヴィッラチドロ村で一九二八年十月に生まれ育ち、今八三歳になりました。人口一万一千人の比較的大きな農村で、わが家は「魚以外は全部ウチでつくったモノしか食べません」でした。後に修道女になった姉のほか兄弟六人で、長男の私と五男のアンジェロは司祭になりました。私は十七歳で神学校に入学して以来ローマ及びヴァチカンでの二十四年間を含めて六十年以上も村を離れています。涙を浮かべて送り出してくれた両親と姉は他界しましたが、アンジェロは教区の司祭ですし残る兄弟四人は、いずれも実家の近隣に住んでいます。日本が、私の「終の棲家」になるでしょう。これは大きなお恵みです。

大司教に叙階され、ローマ教皇ヨハネパウロ二世に挨拶



母の影響で司祭の道へ

私が召命を受けたのは、なんと言っても母の影響です。父は朝から農作業に追われて忙しくしていましたが、母は毎朝、私を連れて村の教会でミサに与かるのが日課でした。

幸い第二次世界大戦の嵐は島には吹き荒れず、すべてが村の教会を中心に日々が過ぎていきました。暖かな人柄の教区の主任司祭や母のお陰で、中学生のころには「神父様になる」と確信していました。シスターになった姉のこともありました。が、両親は「お前が望むなら・・・」と許してくれました。イエズス会(SJ)へ入会し、サルデーニャ島を管轄する北イタリアのトリノ管区の高校(神学校)に入りました。そして選ばれてスペイン・バルセロナの大学へ留学して哲学を学び、SJのトリノ管区は中国宣教を担当していたから、卒業後は当然中国へ行くと思っていました。ところが、中国の共産化で道が閉ざされ、日本に来ることになりました。神学校で学んだSJの歴史で聖フランシスコ・ザビエルが日本にキリスト教をもたらし、ヴァリニャーノ巡察師が天正遣欧四少年使節をヨーロッパへ連れ帰ったことなどから日本は素晴らしい国だと知っていました。その日本で望んでいた司祭に叙階されたのは、何にもまして嬉しいことでした。もちろんこれもお恵みです。

フォス校長は恩人

日本に着いたのは占領の空気の残る一九五二年でした。日本語と「格闘」すること二年間。その後、横須賀市田浦に創設間もなかったSJの栄光学園(現在は鎌倉市に移転している)で教鞭をとりました。わずか二年間でしたが、日本の自

然の美しさ、家庭や共同体を大切にすることが、豊かな国際性などに触れることができました。栄光学園のフォス初代校長は、まだ二十歳台の若い私たちに生徒の家を訪問させました。親の考えを知り、生徒と触れ合えたのは、深く日本を知る素晴らしき機会でした。「イタリア人は行つた先の国を自分の国のように学ぶ」と言われますが、若い宣教師たちを「日本人として育てる」教育方針だったフォス先生に感謝のほかありません。「V O S S」校長は、スペイン語では「B O S S」と発音しますが、本当に素晴らしいB O S Sでした。ボスと云うのは冗談ですが、大恩人です。

「故郷に錦を飾る」

いよいよ、上智の大学院で神学を学ぶことになりました。四年間神学を専攻した後、神田教会で六人の仲間と司祭に叙階されました。一九五九年三月、三十歳のときです。ちよつと話は飛びますが、叙階式にイタリアの家族は参列できません。だったので、私が帰りました。「ジュゼッペ(ヨゼフのイタリア語)が日本で神父様になって帰ってきた」と村中の人々がミサに与かたかと思つたほどの大賑わいでした。大いなる恵みを実感できました。私は司祭になつたら、また栄光学園に戻つてもいいし、フォス校長もそう考えておられたでしょう。ところが、事態は急転します。SJ日本管区長から米國・ハーバード大学の博士課程への留学を命じられたのです。後に日本大使になるライシャワー教授の下で大学院の助手を務めながら「明治憲法とその背景」について研究して二年余で政治学博士になりました。

広がるハーバードでの体験

思えば、この辺りでの経験や人とのつながりが、私のその後の進路に大きな影響をもたらしたといえそうな気がします。まずハーバード大での経験。上智に戻って法学部助教、教授、また上智学院

理事、理事長となつた際に進めた大学改革により参考になりました。一九六八年理事長になつたとき日本中に吹き荒れた学園紛争に直面しました。いくら話し合つても解決できず、バリケード封鎖を強行する学生に対して大学の民主主義を守るには機動隊の導入が必要だと判断しました。私が警視庁へ出かけて力による排除を頼みました。応対してくれたのが、後に連合赤軍による「あさま山荘事件」の解決に当たった佐々淳行さんでした。彼は機動隊長として指揮し、学生にも、機動隊員にも死傷者を出す事なく、不法占拠していた学生を排除し解決に導きました。翌朝の新聞に「上智方式」で学園紛争解決と掲載され、この「上智方式」はその後、多くの大学が取り入れる解決方法になりました。ローマから戻つてからも佐々さんとお会いするなど交流は続いています。これを機に上智も大学としてぐっと成長できたと思います。これも有り難いお恵みといえます。

「言葉」の大切さ
もう一つは「言葉」。スペイン留学で身につけたスペイン語、そして栄光学園教師として家庭訪問で生きた日本語を学び、ボストンでは英語で学部学生に政治学を教えながら博士号をとりました。一九七五年四十六歳のとき上智大学長になりましたが、授業を英語で行う学科の新設など国際化を進めました。一九八一年秋、ローマ教皇ヨハネ・パウロ二世の命でローマへ行ってから、S.J本部の仕事、グレゴリアン大学総長、ヴァチカン科学アカデミー・社会科学アカデミー事務総長、教育省局長というように世界に広がる仕事をするとともに、英語、スペイン語と云う言葉がどれほど役に立ったこととでしょう。さらにハーバード時代から発展した人脈も仕事を進めるいろんな局面で支えとなつてくれました。

余談ですが教育省局長になつた一九八九年九月、大司教になりました。ヴァチカンのサン・ピエトロ大聖堂での叙階式



ピタウ大司教の紋章。中央上部に日本を象徴する「3つのサクラの花」と下部には、生まれ故郷のサルディニア島の海を表す「波」が入っている。

に、上智をはじめ日本から大勢の方が参列してくださったのは、大きな喜びでしたし恵みあふれる瞬間でした。

素晴らしい日本
日本のカトリック信者数がなかなか五十万人を超えないのを気にする人がいますが、私ももう少し増えてもいいと思いません。数だけ多ければ良いと云うものではないでしょう。カトリック国ではない日本で、上智をはじめ多くのカトリックの大学、小中高校、幼稚園があつて素晴らしい教育が行われているのは、奇跡といつても良い。日本文化の大事な部分にカトリックの影響が及んでいます。例えば、教会で結婚式を挙げる若い人が多い。これは、何か特別の価値を見出しているからです。もちろん福音宣教に努力しなければいけません。カトリックの影響の深さは信者の数では表せません。

グレゴリアン大学総長のとき、素晴らしい大学にするため有能な教授、優秀な学生、研究資料などを集めました。それともう一つは、よい図書館を作ることには不可欠でした。

しかもその図書館を学生だけではなく多くの人たちが利用できるようにするサービスが必要で、IT技術の発達で世界中の図書館をネットで結ぶのは、全世界のイエズス会の役割です。ネットの一眼を担う聖三木図書館の将来は、長い眼で見れば明るいはず。(談)

寄贈のお礼

イエズス会聖三木図書館では、再開館後に多くの方々から本をご寄贈いただきました。寄贈本として受け入れ、また復本(紛失、汚損時の差し替え用)としてご利用させていただいております。

- 寄贈者(敬称略・五十音順)
- 小田原克行(三木清・森有正全集)
 - カルメル会(カルメル会関連書籍)
 - 川中なほ子(社会学・ユング関連書籍ほか)
 - 木鎌安雄(トマス・マートン関連書籍)
 - クラウス・リーゼンフーバー(哲学・キリスト教関連書籍)
 - 小山邦夫(キリスト教研究ほか)
 - サンパウロ(新刊図書)

- 上智大学キリスト教文化研究所・東洋宗教学研究
 - ドン・ボスコ社(新刊図書)
 - 原佳子(キリスト教芸術関連書籍)
 - フランシスコ会聖ヨゼフ修道院(キリスト教関連書籍)
 - 増田洋(典礼・キリスト教関連書籍及び雑誌・新聞)
- 以上の方々には特に多数の本をご寄贈いただいております。
- 江島正子、甲斐萬里江、木崎さと子、河野雅夫、久野和洋、今まど子、坂本道子、澤田昭夫、白石仁美、高橋誠、武貞京子、田中美智子、富岡未峰、富田裕、中村友太郎、中村弓子、林幹雄、フィリップ・グロッド、松田久光、松宮克昌、宮本久雄、村上晶子、村上光雄、山下愛子、山田廣子。
- このほかにも多くの会員の皆様、イエズス会会員の方々からの寄贈がありました。心より感謝申し上げます。

声 聖三木図書館の稀覯本『カルメル』

どの家にも“宝物”があるように、図書館は『稀覯本(きこうぼん)』を所蔵している。文字通りに『稀に目にする思いがけない本』のことだ。当館にも「ラゲ訳聖書の明治初版本」などキリスト教関係の貴重な本が何冊かある。

今回紹介するのは、ハードカバーの本ではなく、季刊雑誌だ。跣足カルメル在世会(東京共同体会長・阿部昌子氏)が発行している会誌『カルメル』で、1957年の創刊から最新の345号まで、全号が揃った。すでに製本して書棚に並べた。

修道会はそれぞれの司牧の目的に沿って会報、季刊誌、書籍を発行している。同在世会が「カルメル第三会」と呼んでいた1957年、世田谷区玉川上野毛の本部で、B5判大のガリ版刷り二段組の会誌を創刊した。全8ページの会誌だが『カルメルの美なる元后に捧げる』目的だった。

多くのご協力で全号揃う
当館では、この雑誌の55号以降は所蔵していた。霊的な内容の重要性からも全号揃えるため、全国のカルメル会関係者に問い合わせた結果、阿部会長が持つておられた。しかし多くのページに貴重な個人的書き込みがあつて、コピーを撮った上で図書館の公開に供するのは難しかった。幸い石川県金沢市在住の神本雍子さんが創刊号から保存しておられたので、借用してコピーを撮り、全て揃った。

阿部会長は「貴図書館において『カルメル』を全号保存していただけましたことは、ほんとうに大きな喜び…」と館長の宗正孝神父に便りを寄せてくださった。神本さんは『カルメル』の返送を受け取った返事と共に「今度のことで貴館の尊い働きを知ることができました。貴館の会報名『ゆるし』は私の心に射し込んだ神の光でした。私に蘇る力を与えてくれます」旨の言葉を添えてくださった。当館には身に余る二人の便りだった。

ザビエル 洋楽を伝える!?

京都教区司祭・音楽学

国本 静三

フランシスコ・ザビエルがキリスト教とともに西洋音楽をわが国に伝えた、と考える者です。一五四九年に来日したザビエルの宣教は、数年足らずで大きな実を結んでいきます。そうした折、さらなる飛躍を望んで一五五一年一月、ザビエル一行は厳寒の京都に向かいます。將軍足利義輝と後奈良天皇に拝謁を願います。が叶わず、失意の中、三月に平戸に戻ります。しかし、四月下旬には山口の大内義隆と二度目の謁見を果たし、さらに九月、大分(豊後府内)の大夫宗麟の城へ向かいます。

この時、歴史は動いたのです! すっかり日本の作法を習得したザビエルは、ここでバッチリきめめます。ザビエル一行は美服で装い、珍しい献上物を携え、さらにトランプとフルートなどで楽曲を演奏して、城内に入城したという記録が残っています(注1)。これぞわが国最古、ザビエル企画(?!?)の洋楽演奏記録でした。その後大友宗麟は受洗し、キリシタン大名となります。かくして教会はたいへんな発展へと向かい、信徒数においても今なおこの記録を越せないでいます。

さて、一五七九年、イエズス会のヴァリニャーノ神父が、日本における布教の状況を視察すべく来日します。ヴァリニャーノは日本人の資質を高く評価し、イエズス会の日本代表カブラル神父が認めなかつた日本人司祭の育成こそ日本布教の成功の鍵を握ると考え、数多くの英断を下しました。先ずカブラルを日本から去らせ、司祭育成の教育機関セミナリヨ(注2)を充実させます。その頃、天下



統一に向けていた織田信長は、安土に城下町を建設します。信長はキリスト教に理解を示し、一五八〇年にはオルガンテイーノ神父に安土城跡南西にセミナリヨの土地を与えました。信長はセミナリヨにたびたび訪れ、神学生が演奏する西洋音楽を楽しんだといわれています。セミナリヨでは一般教育のみならずラテン語や体育が重要視され、夏には水泳も行われたとか。特筆すべきは音楽で、日本最初の洋楽教育であったということになります。グレゴリオ聖歌はじめオルガンやヴァージナル(注3)、ヴィオールやガムバの弦楽器などの時間割も伝えられています。

しかし、度重なる禁教令や過酷なキリシタン迫害によって、洋楽の火は消えていきます。さて、時は流れて明治維新(一八六八年)、学制公布(一八七二年)により日本での正式な西洋音楽導入・復興となりました。そして一八七三年にキリスト教禁止令がやると正式に解かれましただ! この頃より音楽という語が一般化

していきませんが、舞踊と音楽を意味する歌舞音曲という語もありました。二十世紀後半過ぎまで東大の三四郎池に「歌舞音曲を禁ずる」の立て札があったのを筆者は目撃しています。これには音楽への偏見が感じられます。筆者の子どもの頃はわが国ではまだ男子の音楽地位は低かつたですね。はい!(笑)。今でこそ踊って歌える男子は優遇されますが、光源氏で存じの通り平安の昔は男子の教養でしたのに、鎌倉時代前後から昭和後半過ぎまで、世は理解がなかつたと言つてよいでしょう。

話は唐突ですが、日本は東西の文化の接点、全く新しい文化を生み出し得る可能性を秘めた強力な土壌かも知れません。日本は地球文化の底力とならなければならぬと思います。かつて打たれた杭がある日本の教会が、その一役を担うのはいかげんか。教会の重要な使命の一つであると考えています、はい。

【お知らせ】
●夏休みの長期貸出について
八月二十日(月)〜八月三十一日(金)までの夏期休館に伴い、七月二十日(月)から長期貸出を始めます。休館中の返却はポストへ。
●聖イグナチオ教会図書館利用について
八月一日より聖三木図書館友の会の利用者カードで、聖イグナチオ教会図書館でも本が借りられるようになります。場所||信徒会館二階
開館時間||日曜日午前十時〜十二時

聖三木図書館から

(注1) 「イエズス会宗教史」 Bibl. Nacional de Lisboa, cod. B-17-34.
(注2) 神学校のこと。セミナリヨはポルトガル語とスペイン語の発音表記で、ラテン語ではセミナリオ。
(注3) ルネサンス期の鍵盤楽器の一種で、チェンバロの前身となるもの。

【友の会からのお願い】

聖三木図書館友の会の新入会および会員継続更新をお願いいたします。皆さまから愛される図書館を目指します。

- 年会費||一般三〇〇〇円、学生一〇〇〇円、賛助会員一〇〇〇〇円
- 入会手続き||氏名・年齢・住所・学生証明書などの確認書類を図書館受付にご提示ください。
- 更新手続き||年会費の納入をお願いいたします。
- 年会費は、銀行口座・ゆうちょ口座からの自動払込みをご利用いただけます。

【お詫びと訂正】

『ゆるし』第三号三ページ三段目十三行目に「阿部郁二氏の共訳」とあるのは「井上郁二氏」の間違いでした。お詫びし、訂正いたします。

近頃、聖三木図書館でよく読まれている本

2012年6月

困ってるひと	大野更紗著	ポプラ社
なぜ聖書は奇跡物語を語るのか	雨宮慧著	教友社
イエスの言葉	山浦玄嗣著	文藝春秋
神に異をとなえる者	アベ・ピエール著	新教出版社
はじめてのアウグスティヌス	S.A.クーバー著	教文館
石が叫ぶ福音	林尚志著	教文館
ヨーロッパ聖地巡礼	ブラッドリー著	岩波書店
科学と宗教と死	加賀乙彦著	創元社
人間の基本	曾野綾子著	集英社
時間について100の言葉	リーゼンフェルト著	新潮社
キリスト教の真実	竹下節子著	女子パウロ会
旅のパウロ	佐藤研著	筑摩書房
新約聖書	フランシスコ会	岩波書店
	聖書研究所編	サンパウロ
置かれた場所で咲きなさい	渡辺和子著	幻冬舎
イエス・キリストの神	教皇ベネディクト16世著	春秋社



【特別寄稿】
歴史がおもしろくなってきた
村松 英子

最近、日本史がおもしろい時代になりました。かつての教育で「オカシイ」と思った疑問が、解明されることが多いからです。

例えば『日本書紀』は、編纂を命じた天武天皇亡き後、藤原不比等が創った嘘八百の虚構だと、いまは常識となりました。昔の教育では、蘇我氏は天皇の家臣の身で横暴だったので、中大兄皇子(後の天智)と中臣鎌足(後の藤原。不比等の父)が組んで、蘇我入鹿(後の蘇我)を殺して、蘇我(うまこ)の孫を殺した、と教わった。同時にその父蝦夷(えみし)を滅ぼし、蘇我氏を滅亡に追い込んだ、と。

私の娘たちが教わった二十年前には既に、蘇我氏こそが大公(おおきみ)と呼ばれる天皇の地位にあり、善政を敷いていたと判明。天皇の名称は、評判の悪い天智体制を倒した、天武(母方が蘇我氏)から始まった。天武天皇は藤原氏を遠ざけた。が、亡き後、後の持統天皇(天智の娘)が、藤原不比等に実権を握らせました。その結果が権謀術数と怨霊恐怖と、虚構の『日本書紀』創作になったのです。

権謀術数がお家芸の藤原氏は、怨霊を恐がった。評判の良い蘇我氏を倒し、政治体制を盗んだ代わりに、聖徳太子という架空の人物を創った。名君、蘇我馬子をモデルに蝦夷、入鹿の功績を加えたと言われます。そして霊鎮めの寺、法隆寺に、聖徳太子の名で蘇我一族を封じこめたとわかったのです。

聖徳太子(つまり馬子)と言えば、太子が信頼し、影響を受けた人として秦河勝(はたの。かわかつ)が有名です。恐らく昔のアッシリアから来た外来人で、原始キリスト教徒。養蚕と機織りを伝えたので、秦氏の名を貰ったとされます。

秦氏の領地の一つ、京都の太秦にある廣隆寺は、秦氏が聖徳太子から贈られた仏像を安置して建てたと言われる。この弥勒菩薩の半跏思惟像は、美しさと共に、類杖のように顔のそばにある手の形が有名です。立てられた三本の指はキリスト教の教義、三位一体を表しているそう。



【当友の会のシンボル、ネモフィラが満開に】
花言葉を『ゆるし』と云うネモフィラが、東日本大震災にも負けずに今年も国営ひたち海浜公園の「みはらしの丘」に見事に咲いた。しかし、茨城県一帯を襲った突風やヒヨウの被害を受け、開花時期が少し短かった。「来春は海を見下ろす丘に四五〇万本以上咲くでしょう」と青木泉 同公園管理センター係長は、期待する。

す。同様の像が、奈良の法隆寺内の中宮寺(聖徳太子の母君の居室だった建物)にある。髪型の上の部分が違うだけで、双子のように似ている点でも有名な二像。廣隆寺にはいまは堂々と「十戒」が掲げられています。最初は聖堂ではなかったか、と思わせるに充分です。かつては同寺と対(ついで)だった蚕の社(かいこのやしろ)、別名木嶋(このしま)神社にも、三位一体を表す三本足の鳥居があり、そばに「ヨルダン川になぞらえた」と説明される流れまである。秦氏の三本足の鳥居を原型とした鳥居は、江戸にも隅田川添いの言問橋近く、三囲(みめぐり)神社にあります。

原始キリスト教の影響で名高いのは、弘法大師・空海です。唐に留学前から影響を受け、漢語訳の新約聖書を持ち帰った。唐で真言密教最高位七代目の僧、恵果(けいか)から八代目を受け継ぎ、師と共に真言密教を大成させて帰国。キリスト教の影響は高野山や東寺の和尚さんたちも認める所で、真言密教の「印を結ぶ」型の中に十字を切る型があるくらい。弘法大師は、日本の仏教を変革し、身近にした人です。

聖フランシスコ・ザビエルは、来日前のリサーチで日本での原始キリスト教の影響を知り「再び、そこに光を当てることは素晴らしいことです」と喜んだ手紙を書いていきます。

【村松 英子氏】一九三八年東京生まれ。慶大大学院英文学科修了。文学座を経て三島由紀夫氏に育てられ、氏の全代表作を主演。氏の没後サロン劇場を主宰。メディアや商業演劇にも多数出演。倉敷市劇場芸文館初代館長。鳥取女子短大教授、慶大特別講師他歴任。詩、随筆、翻訳の著書多数。

『聖書』から、『新約聖書』版が絶えぬが新登場!
発売以来、好評いただいているフランススコ会聖書研究所訳の『聖書』(FB-A5)。このたび、その中から『新約聖書』だけを絶えぬがな(見出し)で発売。持ち運びに便利なA6サイズ、肌触りの良いビニールクロス表紙の新登場。

2つの判型が同時発売

新約聖書

フランススコ会聖書研究所 訳注

A6 縦上装 FB-A6N
定価 1,260円(本体 1,200円)
ISBN 978-4-8084-4019-0 98112

B6 縦上装 FR-B6N
定価 1,785円(本体 1,700円)
ISBN 978-4-8084-4022-2 0012

サンパコ TEL 03-3599-0451 Fax 03-3551-9534 〒140-0004 東京都中央区

カトリック生活 年間購読のご案内
「カトリック生活」は年間購読がお得です!

- 月刊 毎月10日発行
- B5判 44ページ オールカラー
- 定価1部 210円(税込・別途送料76円)
- 年間定期購読1部 3,300円(税・送料込)
- プレゼント発送、海外発送も承ります。

※海外発送は地域ごとに送料が異なります。航空便/船便が便利です。ご指定ください。

いつもよいものを—
ドン・ボスコ社 〒160-0004 東京都新宿区四谷1-9-7
TEL. 03-3351-7041 FAX. 03-3351-5430
http://www.donboscosha.com E-mail: order@donboscosha.com